

こどもの急性疾患の多くは予後良好な疾患ですが、一部に重篤な疾患が紛れ込んでいます。そのような疾患は進行が速いため、早期に適切な診断を下し、治療を開始しないと生命にかかわることも稀ではありません。しかし、こどもは自分から言葉で苦痛を訴えることはなく、また、重症例であっても、発熱・嘔吐など非特異的な症状で発症することが多いため、早期に適切な診断を下すことは困難です。そのため、小児急性疾患に対するより良い予防・治療法を確立することが大切です。

この調査・研究では、小児急性疾患の病態を解明することにより、地域のこども達の健康を増進するとともに、小児急性疾患診療体系を確立することを目的としています。すなわち、受診された患者さんの診療情報、尿・血液検査結果を用いてこどもの急病に対する疫学的研究、病態の検討を行い、良い予防・治療法を確立します。また、その成果を個人が特定されないかたちで公開講座・ホームページ、学会等で発表し、地域・社会に還元していきます。

これらの調査・研究は診察に必要な検査で採取した血液、尿の残りを使用するもので、この調査・研究のために新たに採血・採尿を行なうことはありません。このような調査・研究にご協力頂ける場合には同意書に署名をお願いしております。なお、ご協力いただけない場合でも診療上不利益を受けることはありません。また、一度同意されても後で取り消すことができます。

以下のような調査・研究を予定しています。

- (1) 受診動機、小児急性疾患で見られる症状(発熱・嘔吐など)の原因を分析します。
- (2) 入院が必要となった患者さんの症状、検査結果等と最終診断及び予後との関連性を調べ、重症患者さんに対するより良い診療システムをつくり、その成果を地域・社会に還元します。
- (3) 点滴を必要とする患者さんの検査値と臨床所見(年齢・症状・原因疾患)の関連性を調べ、低血糖、低・高ナトリウム血症などのリスク因子を明らかにし、その成果を地域・社会に還元します。
- (4) けいれんで受診された患者さんの検査値と臨床所見(原因・けいれんが続いた時間など)との関連性を調べ、けいれんに対するより良い診療システムをつくり、その成果を地域・社会に還元します。
- (5) 急性細気管支炎などの急性疾患患者の臨床所見(年齢、酸素飽和度、検査値)と入院有無との関連性を調べ、病態による入院要否に関するより良い診療システムをつくります。
- (6) 1日に2回受診した患者さんの背景を調べることにより、患者さんの負担を軽減できるシステムを見出します。
- (7) 嘔吐などで点滴を行なった患者さんの検査値(脂肪酸)を解析し、隠れた病気の検討を行います。
- (8) 低血糖患者さんの血中ケトン体の有無を調べ、このような患者さんに対するより良い診療システムをつくり、その成果を地域・社会に還元します。
- (9) 検査結果と診察内容との関連性を解析し、血液・尿検査、X線検査のより良い診療システムをつくります。
- (10) その他、急病のこども達の病状や検査結果の解析を行い、こども達の病気のより良い予防・治療法を確立し、その成果を地域・社会に還元します。